

## 【事業実績】

本事業は、ユネスコ「世界の記憶」である山本作兵衛コレクションや、国指定史跡・筑豊炭田遺跡群といった田川市を特徴づける炭坑の文化財の価値を田川市石炭・歴史博物館(以下、「市博物館」という。)の機能に連動させ、市博物館の新たな価値を創造するために下記の事業を実施した。

### 1 国際交流拠点形成事業

市博物館がユネスコ「世界の記憶」所蔵館であることから、田川市における国際交流の拠点として市博物館の機能を促進させるため、以下の事項を行った。

#### (1) 炭坑シートの作成

炭坑では、一般社会であまり使われない独特の用語が使用されている上に、地域によっても呼び方が異なる。このため、炭坑用語をわかりやすく解説するシートを日本語及び英語、中国語(繁体字)で作成し、国内外の利用者へ提供を図った。なお、英語及び繁体字への翻訳については、National Coal Mining Museum for England(UK)の学芸員、Houtong 礦工文史館(台湾)の炭坑 OB に協力いただき、現地の人々が齟齬なく理解できる訳を心掛けた。この際、日本の石炭産業のモデルとなったUKでは、日本の炭坑用語と同意義の単語がないものがあり、また、日本の炭坑技術を輸出した台湾では、日本の炭坑用語とほとんど同義であることが判明した。炭坑を介した国際交流に関するノウハウが市博物館へ新たに蓄積されたことも成果の一つといえる。炭坑シートの作成にあたって台湾の炭坑 OB は、市博物館と共働して炭坑用語辞典を作成したいとコメントがあり、さらなる発展が示唆された。

#### (2) 異文化交流

市博物館における国際交流と教育機能の役割をさらに高めるため、市博物館が台湾の小学生と、田川市の小学生が台湾の炭坑 OB と炭坑をテーマとする異文化交流を行った。当初の予定では、現地へ赴き、台湾の小学生と直に触れ合う交流を行う予定であったが、コロナ禍で渡航が制限されたため、オンラインでの交流となった。前者は、市博物館の子ども学芸員が台湾の炭坑 OB とオンラインで交流を行った。子ども学芸員は英語と中国語で自己紹介を行い、台湾の炭坑 OB へ活発な質問をおこなった。また、後者は、台湾の新北市立十分国民小学校 3~6 年生 17 名を対象に、市博物館学芸員がオンラインで授業を行った。山本作兵衛コレクションをはじめとする田川市の炭坑の歴史を紹介し、石炭に関するクイズなどで交流を行った。台湾・新北市の新聞(観天下新聞)報道によると、参加した小学生の感想として、「田川市の二本の大きな煙突で炭坑節を踊る場面を見た。日本人が台湾に来たら、地元の祭りを案内したい」「炭坑で働いていた、おじいちゃんを尊敬した」とあった。また、オンライン交流に参加した校長は「コロナ禍で渡航が制限されている中、今回のようなオンライン交流を新たな手法として活用し、海外の小学生と交流することで、さらに故郷に愛着をもってもらいたい」とのコメントがあった。



### 2 子ども学芸員育成事業

地域の文化の担い手育成のため、市博物館で子ども学芸員育成を行った。

#### (1) 子ども学芸員テキスト作成

子ども学芸員が利用できるテキストを作成した。今後、市博物館の子ども学芸員育成授業で活用するとともに、市内小学校へ冊子またはPDFで配布し、授業等でも活用いただく予定である。

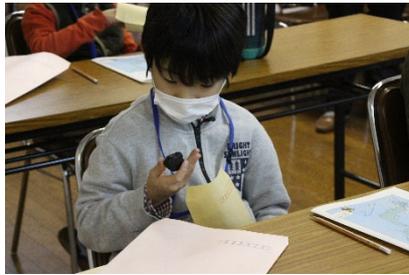
#### (2) 子ども学芸員養成事業

地域文化の担い手、かつ、子ども学芸員として市博物館の機能や地域の歴史を学習しつつ、学んだ知識を他人

へ伝えることを目的とし、子ども学芸員の育成事業を実施した。

#### 【子ども学芸員プログラム】

第1回(令和2年11月28日)「ガイドンス・博物館の役割」



第2回(令和2年12月5日)「炭坑について学ぼう1(世界の炭坑博物館)」



第3回(令和2年12月12日)「炭坑について学ぼう2(日本の炭坑)」

第4回(令和3年1月16日)「ユニバーサル・ミュージアム/炭坑節を学ぼう」



第5回(令和3年1月23日)「史跡をはかろう」

第6回(令和3年1月30日)「石炭記念公園マップをつくろう」

第7回(令和3年2月6日)「成果をまとめよう」

第8回(令和3年2月20日)「がんばった成果を発表しよう」

今年度の子ども学芸員は、市内外の小学4~5年生3名が参加した。地域の歴史や博物館の機能を学習するとともに、障がい者や異言語・異文化の人々など、あらゆる人々が容易に博物館を利用できる/伝えられるために、どのような工夫をすればよいかというユニバーサル・ミュージアムの観点から、プログラムの内容を検討した。子ども学芸員は、海外(台湾)や国内他地域(北海道・釧路市)の炭坑の状況を広い視野で俯瞰して、地元の炭坑の歴史をみつめなおし、ピクトグラムによるマップづくりや目隠しでの資料触察などの体験を通じて、あらゆる人々に伝えていく手法を学習した。最終回は山本作兵衛コレクションを調査した成果を発表して、修了式に臨み、子ども学芸員が誕生した。子ども学芸員に参加した小学生は、「炭坑は多くの人々が働いていることがわかった。また参加したい」と感想を述べた。

#### 総括

本事業の目的は、ユネスコ「世界の記憶」である山本作兵衛コレクションや国指定史跡・筑豊炭田遺跡群など、田川市に特徴的な炭坑をテーマとする文化財の価値と連動し、あらゆる人々が利用できる市博物館のユニバーサル・ミュージアム化を図ろうとしたものである。特に、世界的に活用可能なツールであるユネスコ「世界の記憶」の所蔵館として、海外と市民が交わる国際交流拠点としての機能、さらに、次世代を担う子どもたちが、地域の歴史を学習し、異言語・異文化理解など国際感覚を醸成させ、障がい者などあらゆる立場の人々に自分の考えを伝える能力などを養成する場として、市博物館の新たな価値が創造できたことは、大きな成果である。

しかしながら一方で、多くの人々が市博物館を利用することの指標としていた入館者数は、当初予想していなかったコロナ禍の影響(臨時休館、団体客の予約取り消し、海外訪問客の渡航制限)により、前年度同月比(2月まで)で△60%(8570人)と激減した。影響は今後も続く予想されるが、この状況を打開し新たな活路を見出すためには、最新の情報技術など時勢に即した新たな手法を開発し、市博物館の機能を維持する必要性が改めて感じられた。